平成２７年度　第１回千葉市青少年センター運営審議会議事録

１ 日　時

平成２７年７月２日（木）午前１０時から１１時３０分

２ 場　所

千葉市南部青少年センター２階会議室

３ 出席者

（委　員）

佐々木会長、齊藤副会長、池田委員、石川委員、

多田委員、須藤委員、小川委員、小髙委員

（事務局）

三橋生涯学習振興課統括管理主事　木澤所長　日色所長補佐　川崎主査補

４ 議　題

（１）平成２６年度事業報告について

（２）平成２７年度施設運営方針及び事業計画について

（３）その他

５ 議事の概要

（１）平成２６年度事業報告について

施設の利用状況、主催事業の実施内容等について報告し、承認された。

（２）平成２７年度施設運営方針及び事業計画について

施設運営方針及び主催事業の計画を説明し、承認された。

（３）その他

本年１１月に任期満了に伴う委員改選がある旨連絡した。

６ 会議経過

（１）平成２６年度事業報告について

木澤所長より、資料 P1～7、P11～14 及びパワーポイントの資料を使い、平成２６年度の施設の利用状況、主催事業の実施状況等について報告した。

（佐々木会長）　質問はあるか？

（小川委員）　私は越智中学校区の育成会会長もやっているが、子どもたちを集める場所づくり、子どもたちが健全に育つための場所づくりをしてくださいと言われてい

る。オリエンテーリングやグランドゴルフをやったが、小学生が集まらない。人集めに苦労している。ご家庭の保護者の方に子どもたちをそういう場所に出してもらえないことがすごく残念。ここにＰＴＡ連絡協議会の代表の方もいるので、地域のＰＴＡの皆さんに子どもが楽しい経験をさせてあげるように指導してもらえるといいと思う。

（佐々木会長）　今の意見は、広報と関係するかも知れない。子どもが家から出ない理由もあると思うが、なかなか子どもたちを集めるのは難しい。

（小川委員）　私は千葉市を美しくする会のメンバーで、去年凧作りを企画し、募集したが、参加は２組の親子のみ。あとは関係者ばかりで、残念だった。良い事業はたくさんあるのに、センターもそうだが、子どもたちの参加が少ないと感じている。

（木澤所長）　「ときめきサタディ」の募集は苦戦している。「わくわくカレッジ」のほうが人が集まりやすい。当センターの事業は、市政だよりや「あでるは」で募集している。ところが、最近は、特に若い方々では新聞をとらない家庭があったり、市政だよりをゆっくり見る時間がなかったりというような状況もあるようで、こちらも広報の方法を工夫しなくてはならない。市のホームページを活用したり、近隣の学校へは別のチラシを作って直接家庭に渡してもらえるように依頼している。家庭では、学校からもらうチラシは信用度が高い。ところが、子どもたちも忙しい。習い事をやっていたり、スポーツ少年団にはいっていたりする子も多い。土曜日の開催も考えなくてはならない。待っていても集まらないので、これからも工夫をしていきたい。

（佐々木会長）　利用者はどういうことを求めてセンターに来るのか？利用目的はわかるか？

（木澤所長）　資料の２ページに登録団体の状況がある。個人の利用目的の９９％は楽器の練習、それ以外にダンスがある。団体の利用も音楽が多い。次にダンス、ヨーガなどの健康、演劇、料理、スポーツがある。ラウンジは休憩のためが多い。この時期は高校生が勉強に来ている。

（小川委員）　高校生はどこの高校から？

（木澤所長）　地域は関係なく、決まった高校もない。バンドなどはグループのメンバーがセンターの近くに住んでいるといった理由もある。検見川高校や千葉高校、他市の高校生の利用もある。

（小川委員）　高校生と大学生が来て、子どもたちとコミュニケーションをとるということがうらやましい。小学生は、中学生や高校生に指導してもらうといいなと思う。

（佐々木会長）　つまり、家ではやれないもの、楽器の練習などをするということ。

（佐々木会長）　事業報告について、承認される方は挙手を。

【全員一致で承認された。】

（２）平成２７年度施設運営方針及び事業計画について

木澤所長より、資料 P8～10 により、施設運営方針及び主催事業の実施計画を説明した。

また、資料には記載していないが、施設の貸出予約について、平成２８年４月から電子申請システムを導入予定であること、詳細は第 2 回の審議会で説明する旨報告した。

（佐々木会長）　意見・質問等あるか？

（小川委員）　センター利用の申し込みは 1 か月前から？

（木澤所長）　青少年センターなので、30 歳までの青少年と 30 歳以上の一般で分けている。青少年は 1 か月前、一般は 2 週間前から予約を受け付けている。申込み時期に差をつけて青少年を優先している。ただし、ホールは 3 か月前からで、青少年、一般問わず、来所して予約してもらう。

（小川委員）　施設の予約システム導入となると、青少年を優先するのは難しくなると思うが。

（木澤所長）　そこが課題。担当課には伝えてあり、どう解決してくれるか現時点では不明である。

（小川委員）　公民館もシステム化されているが、利用者が利用しにくいシステム。公民館では 3 か月前から申し込む。2 回目までは優先的。3 回目は抽選。定期的に利用している人に利用しにくい。いつでも利用できるシステムがいいが、大勢が使うとなるとそうもいかない。

（木澤所長）　青少年センターなので、青少年を優先することが大事。

（佐々木会長）　青少年を特化して優先利用させている施設は、ほかには？

（木澤所長）　子ども交流館がある。ただし、１８歳未満まで。

（佐々木会長）　それでは、ここは貴重な施設ということ。

（佐々木会長）　管理運営費のことになるが、利用料を徴収する話はあるのか？青少年とはいえ、受益者負担ということもある。

（木澤所長）　かつて話はあったが、現在はない。

（佐々木会長）　貴重な施設なので、利用料はない方がいい。

（石川委員）　事業案内のパンフレットは、どこでどのように配布しているか

（木澤所長）　当センター内はもちろん、関係機関に置いてもらっている。市内全小中学校、高校にも配布している。

（小川委員）　公民館は？

（木澤所長）　置いているが、中央区に限定している。

（佐々木会長）　利用促進について何か付け足すことは？

（木澤所長）　高校生や大学生の利用者を増やしたい。当センターは千葉大生の利用が

多い。千葉大にはホールのような施設がない。淑徳大は近いが、利用が少ない。学内の施設が充実している。淑徳大学の学生の利用者を増やしたい。中学生は部活が忙しく、利用が少ない。

（木澤所長）　池田委員に「ゆめチャレンジ」の感想とか意気込みを話してもらいたい。

（池田委員）　利用者としては、ここを使っている団体・チームが一堂に発表できる場はありがたい。他の団体を見ることによって交流がもてる。世代もバラバラなので、若い方とふれあって、自分たち団体に興味を持ってもらって、いつか入りたいと声かけてもらったりしてつながっていくので、ゆめチャレンジは意義がある。支援ボランティアの学生も慣れてきた。意気込みを感じるし、自分たちで工夫したいと言ってくれるので、私たちも利用者としてできることを協力する。成果が表れるとだんだん実感がもててくる。続けていくことに意義がある。発表者としてもいろんな方に見て頂けるのでうれしいし、ありがたい場。また参加したい。

（佐々木会長）　運営方針・事業計画について、承認される方は挙手を。

【全員一致で承認された。】

（３）その他

木澤所長より、11 月に任期満了に伴う委員の改選があり、引き続きお願いしたい旨伝えた。

また、議事録の確定について、会長に承認してもらうことを確認した。